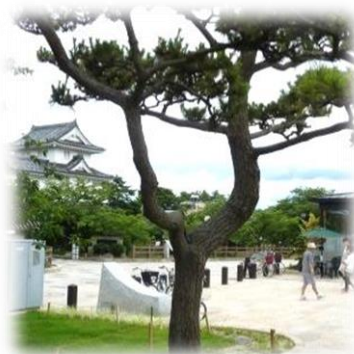




こころに残る景観資源発掘プロジェクト

こころに残る 樹木景観

岸和田市



目次

- P.02 こころに残る樹木景観マップ
- P.03 こころに残る樹木景観
- P.07 こころに残る樹木景観応募者エピソード集
- P.09 岸和田市景観重要樹木
- P.11 こころに残る景観資源 これまでの指定資源一覧
- P.12 プロジェクトの系譜

ここに残る樹木景観マップ



【ここに残る樹木景観】

- | | |
|----------------|-----------------|
| 01_中央小学校のエノキ | 09_流木墓園の桜並木 |
| 02_二の丸公園 マツ | 10_奥家の棕 |
| 03_岸和田城堀端の桜並木 | 11_蛸蛉池公園のヤナギ |
| 04_上町の楠 | 12_蛸蛉池公園のメタセコイア |
| 05_中央公園のモミジバフウ | 13_積川神社の棕と楠 |
| 06_中央公園のポプラ並木 | 14_大沢神社の杉 |
| 07_吉井町のエノキ | 15_塔原町・サクラ |
| 08_西向寺のいぶき | |

※ ここに残る景観資源の見学にお越しの際は公共交通などをご利用下さい。
また、周辺の迷惑にならないよう管理者の指示に従うなどマナーを持って来訪して下さい。

ここに残る樹木景観

01 中央小学校のエノキ

背後にある歴史を感じさせる校舎とよく調和している。学校のシンボルツリーとして多くの卒業生のここに残る樹木である。これからも在学生のシンボルとなってもらえるように、のびのびと繁ってほしい。



堺町



この樹木は、平成27年の学校改修時に校庭内へ移植されています。

02 二の丸公園 マツ

岸和田城に隣接し、歴史的なまちなみと調和するマツ林である。近年芝生化され、訪れる人の一層の憩いの場所となっている。親から子へ思い出が語り継がれるマツ林である。



岸城町

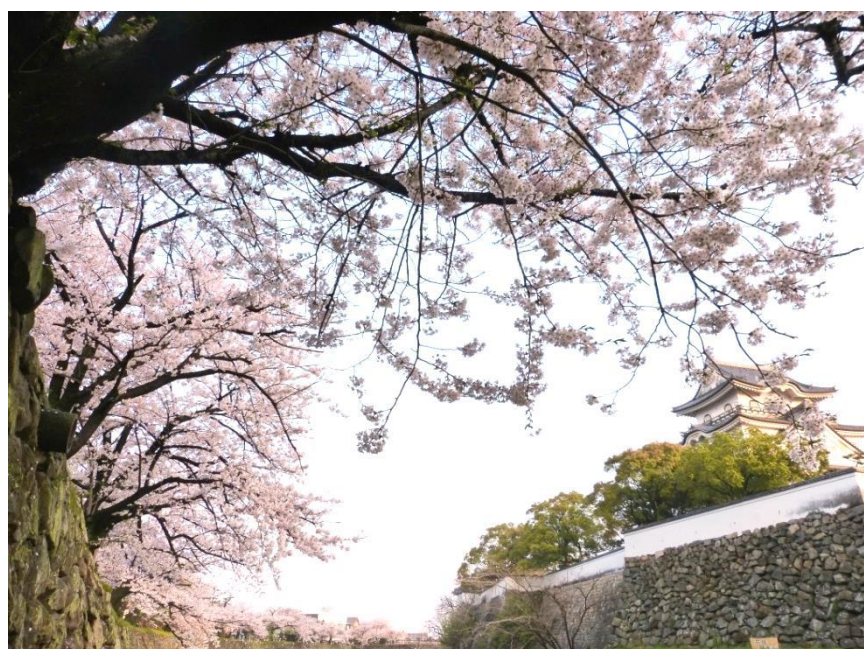


03 岸和田城堀端の桜並木

ランドマークである岸和田城と、堀端の桜並木が作り出す景観は、岸和田市の象徴であり、城周辺の良好な景観をリードしている。開花時期には、「お城祭り」が催され、出店と花見を楽しむ多くの人々で賑わう。



岸城町



04 上町の楠

高くそびえるこの楠は、個人の住宅内にありながら、20メートルを超える高さがあり、道路からもよく見える。樹木の成長に合わせて、建築物の庇を削るなど、お住まいの方の心配りがうかがえる。周辺地域の良好な住宅地の景観を特徴づける樹木として価値を有している。

個人宅のため非公開



ここに残る樹木景観

05 中央公園のモミジバフウ

応募写真は紅葉の時期のものだが、冬の葉のない姿も、新緑の季節も楽しむことができる。公園内の並木であり、地域のシンボルになるというものではないが、中央公園の一部として岸和田の景観を形作っている。



西之内町



06 中央公園のポプラ並木

中央公園の外周には、隣接する住宅地の道路との境界に、ポプラが一直線に立ち並んでいる。全体として統一された樹容は目を引き、公園内で散歩やジョギング、そしてグラウンドゴルフを楽しむ人々をはじめ、多くの市民に広く親しまれている。



西之内町



07 吉井町のエノキ（岸和田市景観重要樹木）

樹高は約15メートル、幹周りは4メートル近くあり、応募者のエピソードにもあるように、見るものを圧倒するような迫力がある。根元にある石塚と傍を流れる天の川とともにこの地域のシンボルとなる樹木である。



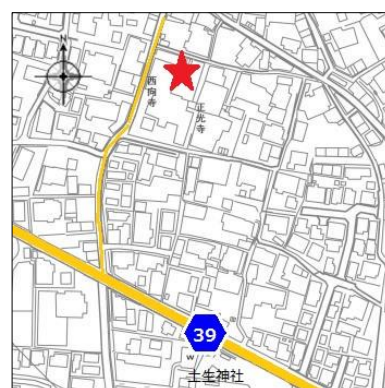
吉井町2丁目



この樹木は平成30年の台風の際に損傷し、樹形が変わっています。

08 西向寺のいぶき

幹のダイナミックなうねりと、いぶきとしては、たぐい稀な大きさに、生命力と迫力を感じた。また、巨木の枝を支える支柱も銅製で組み立てられており、樹木の維持管理に所有者の配慮がうかがえる。毎年いぶきを囲んで盆踊りが行われ、岸和田の民俗文化を支えるとともに、本堂などの境内の建築物とあわせて岸和田の歴史的・文化的な景観を創出している。



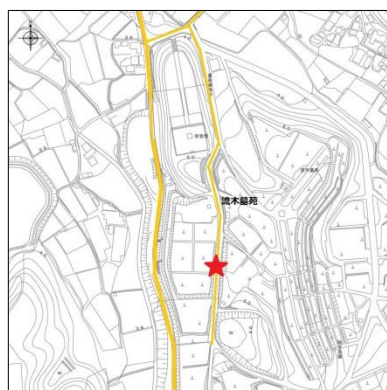
土生町



ここに残る樹木景観

09 流木墓園の桜並木

流木墓園の桜並木は誰もが自由に通り抜けることができ、春には豊かな桜のトンネルをつくる。開花時期にはカメラを片手にたくさんの人が花見を楽しんでいる。また季節を問わず、桜並木は先祖の墓参りに訪れる多くの人の心に残り、世代を超えて岸和田市民に親しまれ愛されている。普段は鎮魂の場として、また桜の開花時は行楽の人々にぎわう深く市民生活に溶け込んだ景観である。



流木町



10 奥家の棕（岸和田市景観重要樹木）

葉が茂り苔が生えていて、より迫力があった。阿間河滝町は岸和田の中でも、古くから石垣が連なる特徴のある町並みを形成しており、棕の大木が旧家の門前に堂々と枝を伸ばす姿は、岸和田の歴史的・文化的な景観を特徴づけている。



阿間河滝町

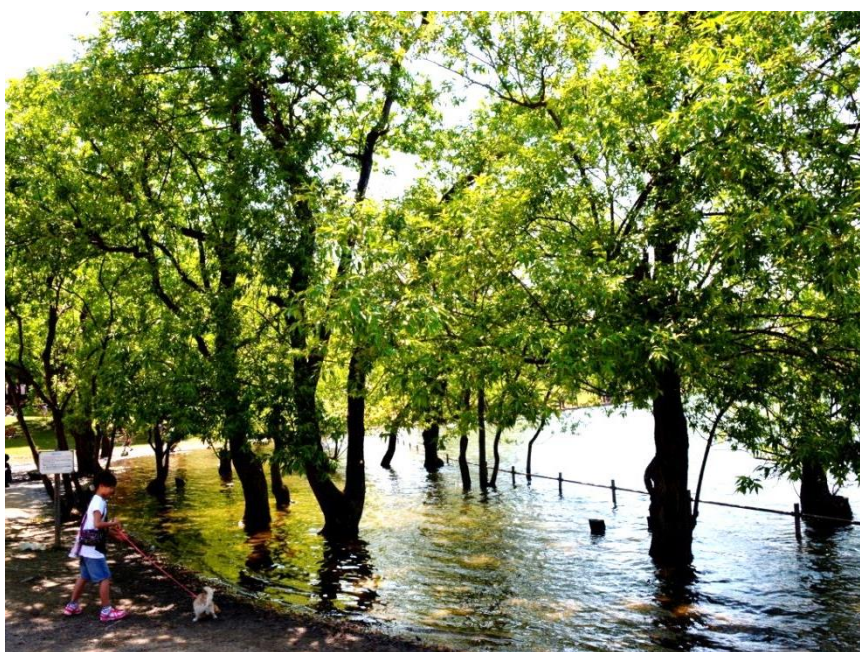


11 蜻蛉池公園のヤナギ

ヤナギの木陰では人々が憩う光景が見られ、市民生活の中で親しまれ愛されている水辺の景観となっている。またヤナギ付近では水鳥が泳ぐ光景が見られるなど、おだやかな自然を感じる樹木景観である。



三ヶ山町

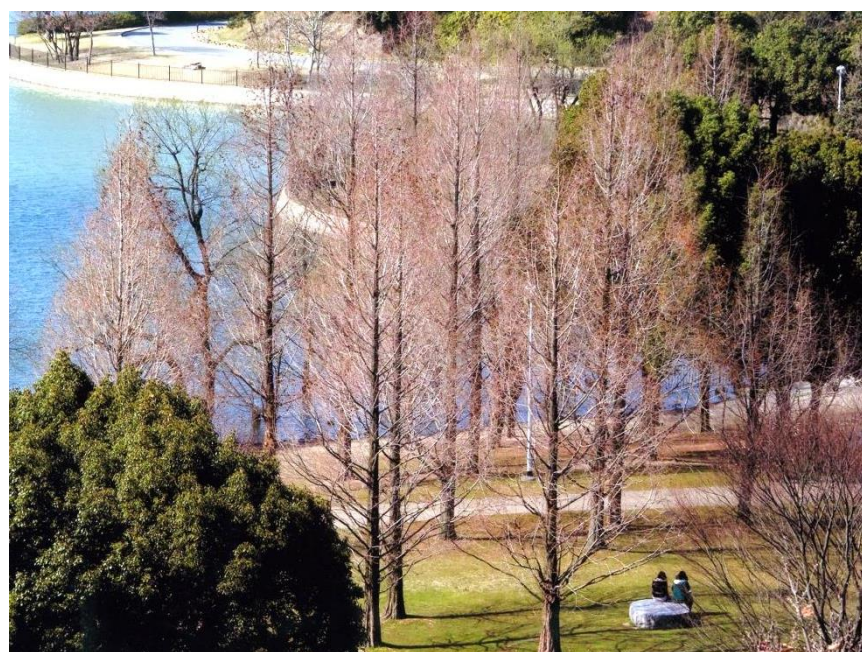


12 蜻蛉池公園のメタセコイア

応募された写真は公園の高台から撮られたものだが、近くから見ても周辺の樹木とよく調和している。公園内の樹木で、地域のシンボルとなるものではないが、蜻蛉池公園の一部として岸和田の景観を形作っている。



三ヶ山町



ここに残る樹木景観

13 積川神社の棕と楠

積川神社は1500年以上の昔、崇神天皇の時代に創立されたと伝わり、本殿は文化財保護法による重要文化財に指定されている。また前面は旧牛滝街道であり、鳥居を挟んでそびえる棕と楠は、神社の厳かな景観を形成し、多くの市民の目に触れる。また、積川神社は近隣住民にとっては10月祭礼などで馴染み深く、棕と楠もふるさとの原風景となっている。



積川町



14 大沢神社の杉

太くまっすぐな樹の幹は境内の奥まったところにある、外の道路から簡単には見ることが出来ないが、鳥居をくぐり、奥の扉を開けると、祠を囲むように3本の杉の巨木がそびえたつ。大沢神社の杉は近隣住民が大切に守ってきたものであり、岸和田の歴史を考える上でも重要な鎮守の森の景観である。



大沢町

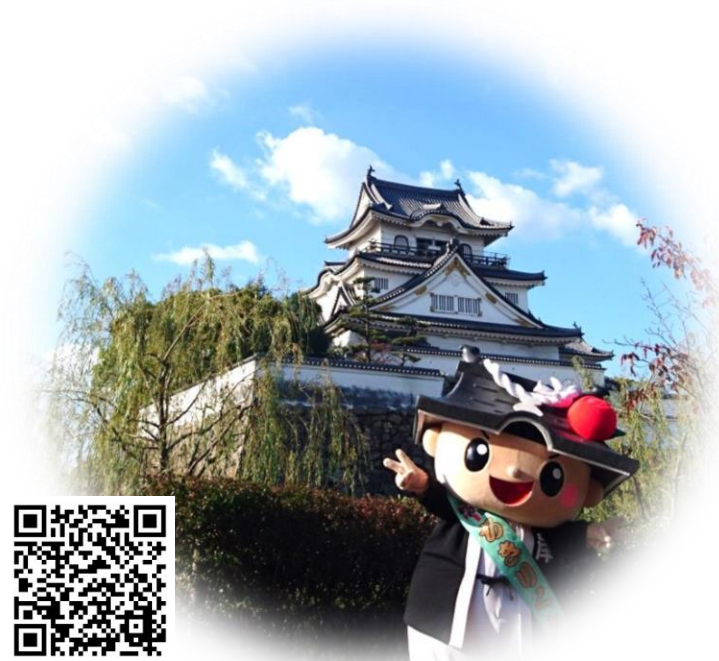


15 塔原町・サクラ（岸和田市景観重要樹木）

背景には和泉葛城山があり、山の景観と調和しつつもサクラが咲く季節には山の緑との素晴らしい対比を創り出している。周辺には電線などもなく、自然景観を阻害する要因も少ない。また、周辺には農の景観が広がっており、春だけではなく夏の葉桜、秋の紅葉など周囲の里山風景を美しく演出している樹木である。



塔原町



ちきりくんのここに残る景観を巡る旅
「ちきちきwalk」

ここに残る樹木景観 応募者エピソード集



1. 中央小学校の
エノキ

◆現在93歳の母の小学校時代に存在したようだが大きさは記憶にないようだ。知人の93歳の方は、その頃すでに大きなエノキだったと記憶していた。また、別の65歳の知人は、学校に行ったらエノキの前で、DDTを頭にふられたことがある。という風にそれぞれ、エノキを覚えていて、その時の出来事を思い出している。おそらく、講堂が建てられた時に植えられたと考えられる。現在も建っている鉄筋の建物の前だ。（応募者：71歳／男性）

◆友達といっぱい遊んだ後えのきの下のかげで休めるおすすめの木。（応募者：10歳／女性）



2. 二の丸公園
マツ

私が小さい頃、よく両親と散歩に訪れました。猿に飽きると、今度は木登りです。この松の木だけが、少し曲がっていて、登り易くなっています。小さい頃は、親父に、上げてもらいました。小学校も高学年になると自分で登りました。自転車の練習もここでしました。こけても下が土なので安心です。公園には売店もあり、この木の上で食べたものでした。時間が進み、私が父親になり、子供が出来て、やはり、同じ事を、わが子にもするのですね。ベビーカーを押しながら、猿さんと遊び、まだ小さい我子に木登りを強要する。勿論、自転車の練習もこの場所で行いました。二の丸広場の「松の木は」私たち家族を長年、見続けてくれています。花が咲くわけでもなく、紅葉するわけでもない、松の木。世代が変わってもこの場所に有って欲しいですね。息子も25歳、次は孫を連れて、木登りですね。その日が来るまでお願いしますよ。（応募者：50歳／男性）



3. 岸和田城堀端
の桜並木

私の住む町内の桜。小さい頃の散歩は、やっぱりこの場所。七五三で岸城神社へお参りするときも、この場所で写真撮影。勿論、お正月も、中学・高校と学年が進んでも、この場所で撮影。（咲いていない時も）桜を見ると、元気が出ます。これから訪れる季節に感謝する。日本人と桜は、切り離せない何かが有る。優しい気持ちになる。毎年、テレビで桜中継が、和歌山城、大阪城と盛ん。「岸和田城も有るのに」と心の中でつぶやく。昨年終了した、NHK連続テレビ小説「カーネーション」。放送直後から、岸和田城を訪れる、観光客は多くなった。私のふるさと、「岸和田市」岸和田城を見られて、ちょっと照れくさい。（応募者：50歳／男性）



4. 上町の楠

岸和田城天守閣より、東南（山側）約500メートルの古い民家の敷地内に植えられた3本の大きな楠を見ることができます。寛文6年（1666年）、岸和田城主岡部行隆の時代に、城内を整備拡張する際、岸城神社の山側の『上町』に住んでいた8軒を強制的に現在の新町に移転させました。この史実から、3本のクスノキの樹齢は約345年と考えられ、新町の西北の境界線上に並んで植えられています。上町の古い民家は全て東南向きに建てられ、楠は民家の裏側を隠す役目もしているようです。新町周辺には計5本の楠が現存しています。新町内のすべての道は狭く、人が一人通れるほどの幅で、新町の内外には約20箇所の枅形が設けられ迷路のようで外敵の侵入と行動を妨げるための防御施設であったと考えられます。楠も戦略上かの役目を果たしていたのかもしれませんが。実際、新町を含む上町（池の尻・小寺）全体も南北両端を流れる古城川と西隅に位置する大池（おいけ）と山側の城が池、周囲の湿地帯に守られた岸和田城山手の防御線。要塞のようです。また、地形・文献・伝承・隣接の古城跡の発掘調査などから、建武元年（1334）に名将、知将と呼ばれた楠正成の一族、和田高家が居城（砦）を構築したのは新町であり、岸和田のルーツはこの地であった可能性が高いと思われます。（応募者：76歳／男性）



5. 中央公園の
モミジバフウ

秋、中央公園もたくさんの樹木が色づき華やかに饗宴してくれます。アメリカフウの並木は、70メートルくらいかな。80メートルくらいかな。紅く色づいたとき、時計台をそっとのぞき見しながら歩くのは、ロマンチックです。ちょっと歩いてみませんか。うれしい数分です（新緑時もよし）。（応募者：76歳／男性）



6. 中央公園の
ポプラ並木

◆中央公園は犬の散歩で毎日訪れますが、多くの木々が植えられており、季節の移り変わりが植物を通じて楽しめるのがいいですね。中でもこのポプラ並木はダイナミック。ポプラの微かな香りを感じながら、この大きな木の下を歩くと小さな悩みは、しばし忘れてしまいます。（応募者：57歳／女性）

◆私の大好きな本に『木も大きな花を咲かせ、皆の心を楽しませてくれる。人間も何か人のためにならなければならない。』と。中央公園の“ポプラ並木”。空高く緑したり、21本が風に乗リウェーブを作る。葉の音律が笑っているような、歌っているような。八木橋を渡る瞬間、左前方が圧巻。この道は“励ましの道”（応募者：64歳／女性）

ここに残る樹木景観 応募者エピソード集



7. 吉井町のエノキ

岸和田市の北端、忠岡町と隣り合う吉井町地区にある樹齢100年は超えると思われるエノキの大樹。夏は15m四方に鬱蒼とした葉を広げ、冬は一切の葉を落として天に向かって枝を広げている様子は見る者を圧倒する。主幹の幹周りは約4m。根元の丑神白鶴大明神の石塚とともに、変遷激しい新興地区にあり、変わらぬ姿で吉井の人々の暮らしを見つめている。旧家加守田邸に隣接しているが、天の川の小さな橋を渡れば誰でも見ることができる。（応募者：65歳／男性）



8. 西向寺のいぶき

お寺の境内に入るとすぐ目に留まるこのカイヅカイブキ。大きさもさることながら、うねるような幹が圧倒的な生命力を感じさせます。（応募者：38歳／男性）



9. 流木基園の桜並木

◆先祖のお墓が、流木に有るせいでしょうか、小さい頃から、よく、両親に連れて行かれました。車が余り通らないのも良いですね。静かで広い公園のようです。墓地との仕切りは無いですが、そんなことは気にしない。青々した、芝生では無い、遊具も無い、でもこの広さがいい。春には、桜並木が大変綺麗。何処の観光地にも負けない。ここは、墓？と疑う位、賑やかになる。お弁当を広げる場所がないと、ドンドン、先に進みついには、よそ様の、お墓の階段に、腰を下ろす始末。本当に面白い光景です。この春も、弁当を持って出かけます。（応募者：50歳／男性）

◆トンネル桜並木、岸和田では一番長くすばらしく美しいヤッホー。岸和田の桜名所、いったい幾つあるんだと、岸和田住民になって最後に探し行きたい名所がここだったと、いまに思うよ。墓地は今のところ、関係ないと思いつつ、桜咲くとつい、足が向き、心がはじく。ここで味わった、華吹雪は忘れられない絶景、髪の毛染まり、顔花けしょう、心ウキウキ、お手手バンザイ、足さん浮足、通り抜け。（応募者：73歳／男性）



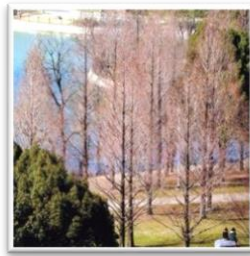
10. 奥家の樟

古い街並みと坂道と石垣の街、阿間河滝が好きで時々散策に寄っている。その中でも特に好きなのが、この奥家の樟の樹。樹齢何百年の風格を漂わせている。大きな堅い樹皮に耳を寄せると心臓の鼓動のような音が聞こえる。太い幹や、逞しい根に触れていると力を頂けるようだ。岸和田の隠れた、パワースポットだ。（応募者：67歳／男性）



11. 蜻蛉池公園のヤナギ

水中に生きる樹木、白鳥やカモ類、季節ごとに飛来する鳥たちが、シロヤナギが覆う水面で、はしゃぐ、一緒に遊ぶ人の子供たちも紫外線を避けられ、楽しく遊べる、感謝の樹木である。この樹木を取り入れた担当者の気持ちが、わたしのこころに伝わってくる。鳥さんの喜びも心に響く、いつまでもいつまでも、このシロヤナギが生き生きとし、私たちも喜ばせてくれることを、シロヤナギさんに祈願する。蜻蛉池公園は鳥たちと、いつまでも人々の心に残る極楽の郷である。（応募者：73歳／男性）



12. 蜻蛉池公園のメタセコイア

「人は、木に寄り添うと心が安らぐ」と言われますが、木と、その木に寄り添っている人を眺めているだけでも、やはり安らぎを覚えるということを発見(?)させてくれた木です。高い位置からの眺め、しかも落葉の季節でないと実感することができません。（応募者：61歳／男性）



13. 積川神社の樟と楠

◆岸和田市、秋のだんじり祭で毎年賑わいます神輿とだんじり曳行の活気盛んな時や宮参りの積川神社境内に聳える（そびえる）樹木はおよそ樹齢800年のムクノキ、そして樹齢80年のクスノキなど。その他シイノキや数々大木の鎮守の森が有り、周辺には、大木を加工したベンチなど設置されている。憩いの広場で腰掛けて眺める壮観は誠に心が和みます。（応募者：76歳／男性）

◆鳥居を挟んで大樹木。この姿に心踊らない参拝者はいないだろう。そしてその思いはここに残る、忘れられない人生、私の一生もムクノキの根元に座って、樹齢850年の歴史をこころに収めたい。クスノキに登る、天まで登る力が！創造の世界に夢を見る。鳥居に覆いかぶさるクスノキの生命力ムクノキに負けず、人生に目標と達成感が宿る。（応募者：73歳／男性）



14. 大沢神社の杉

大沢神社の3本の杉は、岸和田にもこんなに大きな杉があったのかという驚きとともに、見る者を敬虔な気持ちにさせてくれます。『いよやかなの郷』へ訪れる際は一度立ち寄ってみて下さい。（応募者：38歳／男性）



15. 塔原町・サクラ

塔原町の高台にある一本桜。村の共同墓地の傍らに佇み、人々の営みをひとり何年も見つめ続けている。標高が高いためか、ほかの岸和田の桜よりも1週間ほど遅咲きである。（応募者：49歳／男性）

※「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」のタイトル及びエピソードは応募原文のままとしています。

岸和田市景観重要樹木とは、地域の良好な景観を特徴づけ、市民に愛され、今後も保全が必要となるなど次の要件を満たした樹木を対象として、景観法に基づき指定するものです。

- 地域の景観を先導し又は継承し、良好な景観を特徴づけている樹木
- 歴史的、文化的な価値が高い樹木
- 市民に親しまれ愛されている樹木
- 良好な景観形成のため市長が必要と認める樹木



岸和田市景観重要樹木シンボルマーク

今回、ここに残る景観資源発掘プロジェクトにより市民等より応募、選考され、市が指定した「ここに残る樹木」のなかから、「奥家の棕」「塔原町のサクラ」「吉井町のエノキ」の3本を岸和田市景観重要樹木に指定しました。



岸和田市景観樹木をより知って頂くために、パンフレットを作成、配布しています。

【配布場所】 市役所受付（新館・旧館・別館）
市内市民センター、公民館
市内公共施設にて

また、市ホームページでも岸和田市景観重要樹木についてご紹介していますので、是非ご覧ください。



岸和田市景観重要樹木
はこちら



奥家の棕（阿間河滝町）



人々の営みとの共生が紡いできた
歴史的まちなみの景観

所在地：岸和田市阿間河滝町1643番地
樹種：棕木（ムクノキ）
樹齢：約300年
樹容：樹高9m 幹回り15.8m

塔原町のサクラ (塔原町)



雄大な和泉葛城山を背景に
四季の移ろいを刻んできた里山の景観

所在地：岸和田市塔原町374番地
樹 種：染井吉野（ソメイヨシノ）
樹 齢：約45年
樹 容：樹高12m 幹回り3.0m

吉井町のエノキ (吉井町)



丑神と共に人々の暮らしを見守り続け
信仰の対象となって地域に受け継いでいく風土の景観

所在地：岸和田市吉井町2丁目519番地
樹 種：榎（エノキ）
樹 齢：約200年
樹 容：樹高16m 幹回り4.7m

ここに残る景観資源 これまでの指定資源一覧

ここに残る景観資源発掘プロジェクトにより発掘、指定した景観資源は、2021年3月現在、樹木景観15件、みち景観21件、水辺景観15件、まち景観19件、ひとの営み景観10件となります。それぞれの景観資源については、パンフレットまたはホームページで紹介していますので、是非、ご覧ください。

ここに残るみち景観 21件指定



- 01_岸和田大橋（阪神高速湾岸線）
- 02_岸和田港を臨むみち
- 03_堺町のだんじり小屋横
- 04_お寺の道（本町紀州街道）
- 05_南町のみち（紀州街道）
- 06_春を待つ岸和田城の桜道
- 07_春木川遊歩道（兵主神社横）
- 08_久米田寺へ続くみち
- 09_久米田池遊歩道（平成26年度指定分）
- 10_久米田池遊歩道（平成27年度指定分）
- 11_東ヶ丘町グリーンバルロード・花絨毯

- 12_流木墓園桜並木みち
- 13_阿間河滝の阿弥陀寺への参道
- 14_包近楠本神社もも花参道
- 15_福田町のまちなみ
- 16_牛滝街道（積川町）
- 17_バラの小道（蜻蛉池公園）
- 18_メタセコイアの小道（蜻蛉池公園）
- 19_相川ほたる遊歩道
- 20_牛滝いよやかの郷散策道
- 21_和泉葛城山登山道

ここに残る水辺景観 15件指定



- 01_はためく岸和田漁港大漁旗雄々しく
- 02_お堀と城下町
- 03_岸和田城を彩る夏の華
- 04_岸和田城水辺
- 05_久米田池の幻想的なハーモニー
- 06_水鳥と久米田池
- 07_山直中町 錦秋のスリバチ池
- 08_田治米町 ポピー咲く七ツ池
- 09_蜻蛉池公園大池の水鏡
- 10_積川町 水路のある古の町並み
- 11_意賀美神社横 雨降りの滝
- 12_内畑町 田んぼへの水引きの始まり
- 13_大沢町 サギも降り立つ棚田
- 14_牛滝山大威徳寺 一の滝
- 15_牛滝の谷にそそぐ錦流の滝

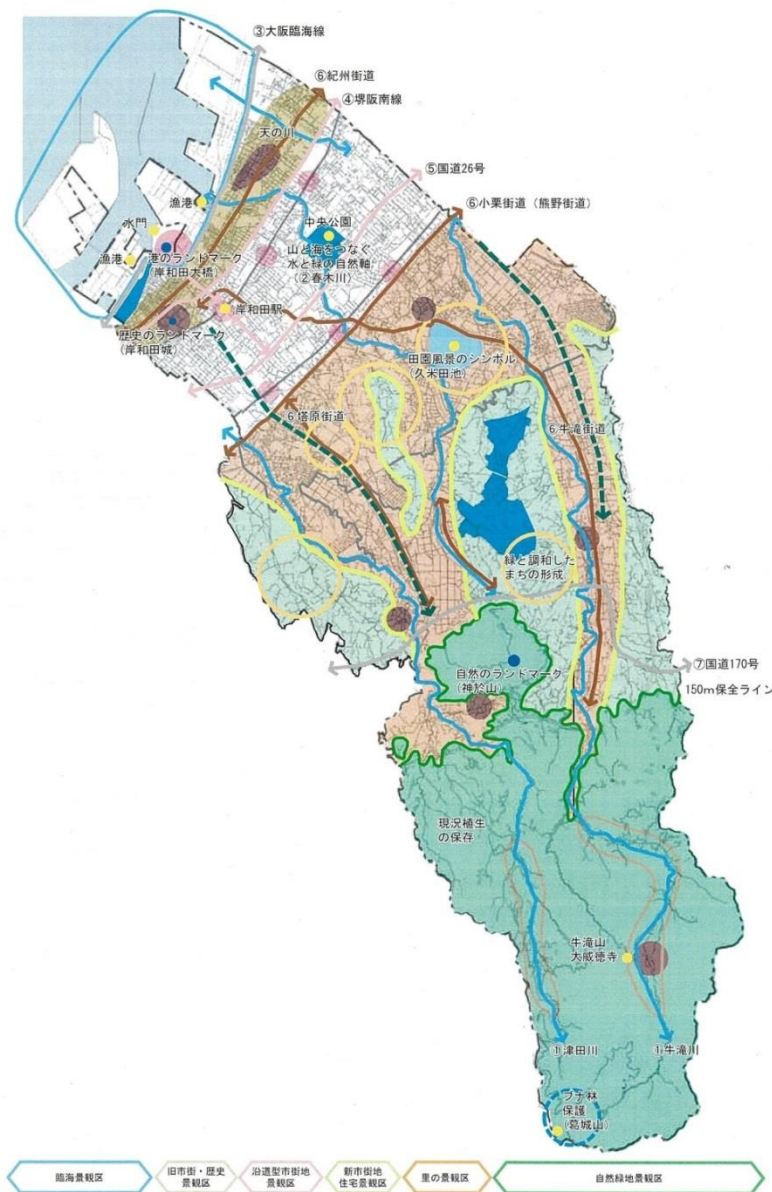
プロジェクトの系譜

岸和田市景観計画

岸和田市景観計画は、恵まれた自然・歴史・文化資産を活かし、岸和田市にふさわしい風格ある景観づくりに努めることで、更に岸和田らしい魅力あふれた快適なまちとして、これを次代の市民、事業者を引き継いでいくことを目的に策定しています。

景観形成の基本目標である『豊かな自然環境と歴史的環境が織り成す「個性的快適環境都市」の創生』を実現するためには、市民、事業者、行政が総合的かつ多面的にお互いの立場を理解しながら協力し、優れた景観をまもり、はぐくみ、つくりだし、次の世代へつないでいく必要があります。

基本景観区	主な土地利用
臨海景観区	工業、港湾
旧市街・歴史景観区	住宅、商業
沿道型市街地景観区	住宅、商業、工業
新市街地住宅景観区	住宅、商業
里の景観区	農地、樹林地
自然緑地景観区	樹林地



ここに残る景観資源発掘プロジェクト

ここに残る景観資源発掘プロジェクトは、地域の景観の核となる資源を発掘し、その情報を蓄積、共有していくことで地域の魅力を高め、郷土への愛着や誇りの醸成と地域価値の向上に寄与するなどの効果を創出する事を目的として平成24年度よりプロジェクトを実施しています。

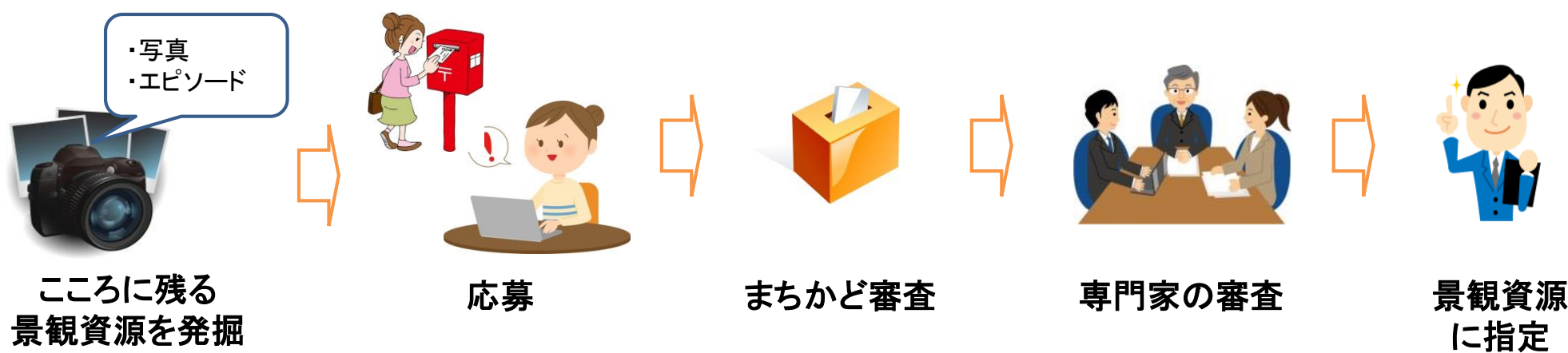
【指定状況（2022年3月現在）】

樹木景観15件、みち景観21件、水辺景観15件、まち景観19件、ひとの営み景観10件、眺望9件】



まちかど審査の様子

プロジェクトの流れ



「未来へつむぐ物語」

「景観十年・風景百年・風土千年」と言われるように、私たちの日々の営みが、いつか時を経て、風土としてその土地に息づくことを想定しながら、「未来につなぐ」景観形成に取り組むことが重要だと考えられます。

これまで、優れた景観形成に寄与する地域の人々に大切に守られてきた「樹木」「みち」「水辺」「まち」「ひとの営み」について景観資源を発掘し、その情報を蓄積、共有に努めています。

「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」の詳しい内容は岸和田市ホームページからご覧いただけます。

岸和田市ここに残る景観資源

検索



ここに残る景観資源発掘プロジェクトはこちら

問合せ先：岸和田市まちづくり推進部都市計画課 景観担当

〒596-8510 岸和田市岸城町7-1 ☎072-423-9538(直通)



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です